

小松市埋蔵文化財調査だより

第9号 1999. 3. 31

小松市教育委員会 〒923-8650
石川県小松市小馬出町91番地
埋蔵文化財調査室 TEL (0761) 22-4111



よう か い ち じ か た い せ き 八日市地方遺跡 — 集落部分調査 —

八日市地方遺跡は、調査も5年日になり、遺跡内をながれる河川の左岸部分の集落の様相が明確になってきました。今年度は遺跡内でもっとも遺構が密集する箇所（環濠）の調査を行いました。この箇所は、時期を経て、くり返し何度も土地利用がおこなわれていたようです。当初は集落を囲む溝（環濠）が河川にそそぎ込むように掘り込まれていました。その後溝の土が半分ほど埋まり、溝としての機能が失われた段階で多量の上器、木器を廃棄しています。溝が完全に埋まった後には、2間×4間の大型の建物、1間×2間の建物、上器や木器をいれる大小さまざまな穴が作られているため、人が生活する場所として使われていたようです。またこの箇所からは管玉の製作工程をすることができる遺物が多量にでています。このため、この付近に管玉の工房もあったと考えられます。



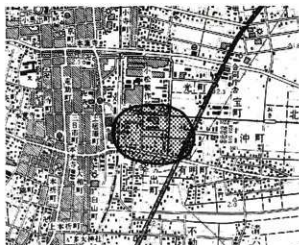
環濠の遺物検出状況

平成10年度埋蔵文化財発掘調査

よう か いち じ かた い せき 八日市地方遺跡の調査

所在地 小松市日の出町地内
調査期間 平成10年4月13日～継続中
調査面積 5,316㎡
原因 土地区画整理事業
遺跡の概要 八日市地方遺跡は、JR小松駅を中心とする市街地の東側に位置し、約78,000㎡の範囲に広がる弥生時代の集落跡です。

遺跡は小松平野のほぼ中心に位置し、梯川と旧今江潟、木場潟にはさまれた概ね海拔5m以下の低地に存在します。昭和5年に遺跡の存在が確認され後、小規模な調査が行われ、この時見つかった土器を石川県弥生時代中期の標識の土器として「小松式土器」と名付けられました。小松駅東土地区画整理事業に伴い、平成5年度より大規模な発掘調査が行われています。これまでの調査の成果から集落は居住区、工房域、墓域、環



八日市地方遺跡の位置 (1/25,000)

濠がみつかっており、工房域では木器加工、玉作り、石器作りなどを行っていることや、出土している遺物から他県との広域な交流が行われていたことが理解できることから、北陸における弥生時代中期の中核的な集落ということが出来ます。

ぬか み まち い せき 額見町遺跡の調査

所在地 小松市額見町地内
調査期間 平成10年4月7日～12月18日
調査面積 10,000㎡
原因 土地区画整理事業
遺跡の概要 額見町遺跡は月津台地の南西側、半島状に突き出た部分の南西端、柴山潟を眼下に望む見晴らしのよい台地に位置します。飛鳥時代から平安時代末期まで連続的に営まれた大規模な集落遺跡です。遺跡の主体の時期は7世



額見町遺跡の位置 (1/25,000)

紀初頭から8世紀後半、律令時代に位置づけられ、越前国江沼郡額田郷の候補地としてあげられる部分に属します。当遺跡は郷閭連遺跡と考えられ、額田郷の中核となる施設が存在した可能性は高く、また国内でも珍しいオンドル状遺構を伴った堅穴住居が何軒もみついています。

調査の概要 今年度はC・D地区合わせて約10,000㎡の調査を行いました。

C地区は昨年度調査を行ったB地区の南に位置し、B地区の集落の様相を継続している様子で遺構の内容も類似しています。



額見町遺跡調査区域図

主な古代の遺構としては、竪穴住居^{たてあなじゅうきょ}24軒（そのうちオンドル状遺構^{おんどるじょういこう}5軒）、掘立柱建物^{ほりたてしやうぶつ}74軒（そのうち倉庫跡^{くらぐさ}12棟）、鍛冶^{かじ}が1基、製炭^{せいたん}上坑^{じやうけい}2基、墓坑^{ぼけい}7基などがみつかっており、削平がひどかったものの、建物が密集して存在していたようです。主な遺物としては須恵器、土師器、門面甕、土鳥、管玉、陶製分銅、鉄の刀子、銅鈴、甕と思われる鍛冶道具^{かじどうぐ}がみつっています。

D地区は3年前調査を行ったA地区の南側に位置し、7世紀初めから中頃の時期の竪穴住居3軒（そのうちオンドル状遺構^{おんどるじょういこう}2軒）、掘立柱建物^{ほりたてしやうぶつ}8棟、土器廃棄坑^{どきはいきこう}5基がみつっています。ここでみつかった遺構の大きさ、形態、時期はA地区でみつかったものと類似しており、D地区はB・Cとは異なるA地区の集落の続きと考えられます。

C・D地区は、これまでの調査区の延長であり、類似した様相をもちますが、8世紀頃と思われる墓坑^{ぼけい}がまとまって検出されたこと、壁支柱^{かきしちゆう}をもつ7世紀終わり頃のオンドル状遺構の存続期間が大型の竪穴住居が存在する最末期の時期まで継続することがわかったことは大きな成果であり、C地区でまとまって発見された倉庫跡の存在や、掘立柱建物の密集は、額田郷の中心施設をとりまく、周辺居住区の様相を示しており、遺跡の中心部へ近づいたことを予想させます。

また、これまでの成果からオンドル状遺構の竪穴住居が集落の開始時期からみられることがあげられます。これは、当地に渡来人が集団で移住したことを示しており、当遺跡が渡来人の居住区として位置づけられることを物語っています。そして土師器焼成坑^{しじきやうせいけい}や鍛冶関連遺物^{かじかんれんいぶつ}が竪穴住居に伴って出土することは、この時期の他の集落遺跡ではほとんどみることができません。そのため当遺跡は鉄や土器作りに関与する技術をもち、これらの手工業生産を担当する集落として額田郷のなかで重要な位置を占めていたものと考えられます。



竪穴住居の遺物検出状況



オンドル状遺構をともなった竪穴住居



額見町遺跡C地区調査区域全景

佐々木遺跡の調査

所在地 小松市佐々木町地内
調査期間 平成10年4月6日～継続中
調査面積 4,000㎡
原因 一般国道8号小松バイパス建設工事
事業管かんがい排水事業

遺跡の概要 佐々木遺跡は、JR小松駅から東へ約3.5kmの佐々木町地内にあります。梯川中流の左岸、標高約4mの自然堤防上に立地し、北側は梯川の氾濫原、南側は後背湿地となっています。周囲には数多くの集落遺跡が存在し、この地域が古い時期から人々の生活に適していたことがうかがえます。昨年度の発掘調査で、奈良時代頃の掘立柱建物と、建物を囲むように位置する柵列や溝を確認しました。建物はまばらで、どれもほぼ南北を軸として整然と並んでいます。中には周囲を板塀で囲んだ掘立柱建物1棟と、総柱建物が数棟みられます。その他北陸でこの時期のものでは最大級ともいえる大型の横板井籠組の井戸枠がみつかっています。



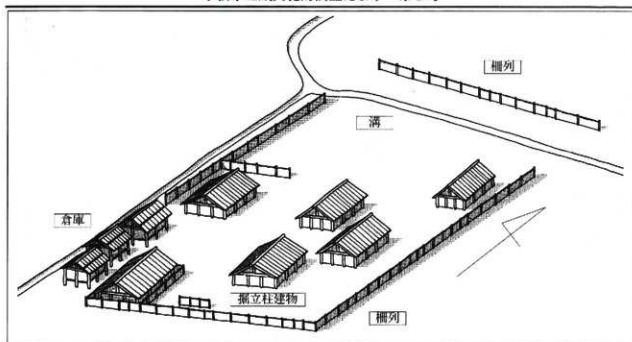
佐々木遺跡の位置 (1/25,000)

調査の概要 今年度の調査では、昨年度の調査区からつづいて広がる8世紀前半頃の掘立柱建物群を確認しました。南北を軸とする3間×3間の掘立柱建物が主体で、建物群を囲むように溝や柵列がみられます。

昨年度の調査と合わせると、約50㎡四方の溝と柵に囲まれた区画の中に機能別につくられたと思われる建物が整然と並ぶ様子をうかがうことができます。さらに北側からは、9世紀の中頃から10世紀の重複した3間×2間の掘立柱建物や、井戸がみつかりました。



佐々木遺跡調査区全景



佐々木遺跡建物復元図

遺物は主に須恵器や土師器が出土しています。その中には、一般の集落遺跡ではあまりみることのできない文字が書かれた土器（墨書土器）や赤彩土師器、転用碗等もあります。墨書土器は、奈良時代と平安時代のものが建物群を囲む溝の中からみつかりました。当時、奈良時代では誰でも文字が書けたわけではないので、墨書土器の出土からも遺跡が一般の集落とは異なることがわかります。

奈良時代の墨書土器の中には「野身」「財部寺」と須恵器に書かれていたものがでています。「野身」は10世紀の初めの『和名類聚抄』にでてくる郷の名前です。加賀国能美郡五郷の一つで、能美郡の郡名もこれに由来しています。また、加賀国府は郡城中心部の野身郷におかれたともいわれており、野身郷は加賀国の行政上重要な位置を占めていたようです。この墨書土器の出土により、「野身」という地名が、8世紀中頃にはすでに使われていたことがわかります。「野身」を表した文字資料としては最古のものといえます。

当時、財部・財部といった氏族が加賀地方に置かれており、平安時代後期までの加賀国の在庁官人として重要な役割を果たしていたことが、文

字資料からうかがえます。この「財部寺」と書かれた墨書土器は、8世紀中頃の佐々木遺跡周辺部における、財部氏の活動を裏付ける証拠の一つになりそうです。その他、平安時代の墨書土器には「貴」「田中」「富加」「丸丸凡」と書かれたものが出土しています。意味はわかりませんが「富加」や「丸丸凡」は、祭祀や儀礼に伴って書かれる吉祥的用語とも考えられます。

佐々木遺跡は、遺構や遺物等から判断すると倉庫や工房を伴った奈良時代頃の公的な性格を持つ施設の跡と考えられます。また、「野身」や「財部寺」と書かれた墨書土器の出土から、佐々木遺跡でみつかった施設が、野身郷や当時の加賀地方の有力者であった財部氏と関わりがあったことが推測できます。



溝から出土した墨書土器

や た か り や

矢田借屋9・10・11号墳の調査

所在地 小松市月津町地内

調査期間 平成10年10月13日～平成11年1月28日

調査面積 350㎡

原因 個人住宅建設

遺跡の概要 小松市西南部に位置する月津台地には、多くの古墳が集中して営まれており、三湖台古墳群としてその名が知られています。

矢田借屋古墳群はこれに属するもので、前方後円墳2基を含む小円墳6基の合計8基の古墳時代後期に築かれた古墳群の総称です。しかし昭和30年までに、発掘調査されたり、破壊される等ですべて消滅しています。

昨年度の分布調査で矢田借屋古墳群に属する新たな古墳が発見され、今年度は住宅建設部分を対象に、発掘調査を行うこととなりました。



矢田借屋古墳群の位置 (1/25,000)



9号墳埋葬施設跡

調査の概要 今回の調査では、3基の古墳を確認しました。

古墳は周囲に溝を巡らせ、中央を土で高く盛り、その部分に埋葬施設をつくるのが特徴です。土を高く盛った部分を墳丘といいますが、今回の調査では墳丘は既に削平されてなくなっていました。検出された周溝から、直径12mの円墳群であると予想されます。

周溝内からは、火、中、小甕、杯、高坏、甕、



9号墳検出状況

埴瓶などの須恵器が壊れた状態でみつかりました。これらは被葬者を葬る際、墳丘上で儀式を行うときに使われたようです。また、9号墳の周溝内からは土師質、須恵質の円筒埴輪がみつかっています。

埋葬施設は、9、11号墳の2基から確認されました。どちらも調査区の端にかかっており、大変残りが悪く、11号墳の埋葬施設では痕跡のみの確認となっています。

一方、9号墳の埋葬施設は全体の4分の1ほど確認することができ、箱形粘土室奥壁部分と鏝床を検出しています。粘土室は、南加賀地域にみられる特有なもので、白色粘土で室をつくり、中に棺を安置する埋葬施設です。また、副葬品としてガラス小玉、管玉、鹿角装刀、鉄鍔、小片の鍛冶滓が出土しています。鍛冶滓は鉄を作るときに出るカスです。これが棺の中に納めたとみられることから、被葬者は、手工業生産に関わる重要な人物だったのではないかと予想されます。

うち こし い せき
打越遺跡の調査

所在地 小松市若杉町地内

調査期間 平成10年7月1日～8月31日

調査面積 1,200㎡

原因 病院移転事業

遺跡の概要 打越遺跡は梯川中流左岸部分、沖積低地に埋没している微高地上に位置し、この地域は、弥生時代終わり頃から歴史時代にかけて、漆町遺跡をはじめとし、多くの複合遺跡が確認されています。

調査の概要 今回発掘調査を行った部分は打越遺跡の推定範囲のちょうど中央部分に位置します。調査の結果、調査区の北側より、近代の用水と思われる溝を確認したのみで、その他の遺構は発見されませんでした。遺物は調査区から、古代の須恵器、中・近世の陶磁器が少量ながらも出土しています。



打越遺跡発掘作業風景

よし たけ い せき
吉竹遺跡の調査

所在地 小松市吉竹町地内

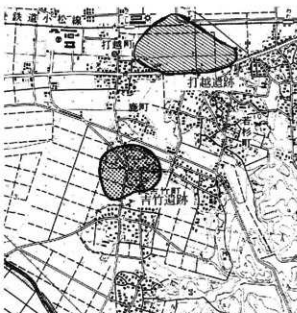
調査期間 平成10年6月4日～6月9日

調査面積 66㎡

原因 上地区画整理事業

遺跡の概要 吉竹遺跡は、木場湖の北東方向に位置する台地上にあり、弥生時代後期から古墳時代にかけて存続する集落遺跡です。

今年度は調査面積も少なく、風倒木痕と思われる土杭4基を確認したのみで、遺物もほとんど出土しませんでした。



打越遺跡・吉竹遺跡の位置 (1/25,000)

平成10年度 埋蔵文化財調査事業一覧

発掘調査	遺跡名	所在地	調査期間	原因	時代	面積	
	佐々木遺跡	佐々木町	4月6日～継続中	小松バイパス・かんがい排水	(国・県)	奈良	4,000㎡
	額見町遺跡	額見町	4月7日～12月18日	土地区画整理事業	(市)	奈良・平安	10,000㎡
	矢田借居古墳	月津町	10月13日～1月28日	個人住宅建設	(民)	古墳	350㎡
	打越遺跡	若杉町	7月1日～8月31日	病院移転計画事業	(民)	古代～近世	1,200㎡
	吉竹遺跡	吉竹町	6月4日～6月9日	土地区画整理事業	(民)	弥生・古墳	66㎡
	八日市地方遺跡	日の出町	4月13日～継続中	小松駅東土地区画整理事業	(市)	弥生	5,316㎡
分布調査	開発行為名称	所在地	開発面積	調査日	備 考		
	分譲宅地造成事業	(民) 矢田町	12,852㎡	4月21日	ほとんど削平、一部保存		
	宅地分譲	(民) 福の宮町	1,236㎡	6月4日	埋蔵文化財は確認されず		
	店舗建設	(民) 若杉町	3,306㎡	9月1日	埋蔵文化財は確認されず、工事了承		
	病院移転計画事業	(民) 若杉町	5,742㎡	4月13日	詳細分布調査の結果、発掘調査を実施		
	集会所建設	(民) 扇原町	699㎡	5月26、27日	詳細分布調査の結果、遺跡を確認		
	ショッピングセンター建設	(民) 津波倉町	55,600㎡	11月24～27日	埋蔵文化財は確認されず		
	病院建設	(民) 八幡	24,700㎡	12月10、11日	一部遺跡の可能性あり。事業実施の際、立会調査を行う		

(市)は市営事業、(民)は民間事業を示す。

小松の重要遺跡・遺物⑨



よう か い ち じ か た い せ き つ か つ ま せ い せ っ け ん
 八日市地方遺跡出土の把付き磨製石剣

把付き磨製石剣は自然河川の左岸、南側の居住域に近い肩部よりみつかりました。時期は出土した層から弥生時代中期中葉と思われ、全長は24.3cm、幅は2.6cmあります。石剣の基部をはさむ部分の把縁は半円形に、把頭は、ややふくらみをもたせ、そこに細かい横線を5条彫り込み、端部は階段状に削り出すといった、丁寧な装飾が施されています。そして握る部分には、石剣の固定と手の滑り止めを兼ねた紐状の樹皮が巻かれています。磨製石剣自体の出土例は西日本を中心に多くみられますが、把に装着したものの出土は全国初であり、使われていた状態を示す資料として重要な遺物であります。

八日市地方遺跡の自然河川は当遺跡内を北東から南西へと流れており、縄文時代晩期から弥生時代中期後半の遺物が出上っています。河川跡は時期の古い方から順を追って整然と堆積しており、遺物の残りもとてもよいため、居住区域では得られない情報がたくさんあります。出土する土器は遺跡の消長を示し、木器、石器、自然遺物からはその当時の生活の様子をうかがうことができます。今年度みつかった主なものとして、石川県内でも数少ない弥生時代前期の壺（遠賀川系土器）、弥生時代中期中葉の線刻装飾のある壺などがあります。

また河川岸の部分からは貯蔵穴や、貝塚がみつかっています。いずれも当遺跡の終わり頃、弥生時代中期後半に比定するものです。貯蔵穴からは、トチの実、ドングリ、くるみなどの堅果類と麦がでています。貝塚からは、シジミ貝、カワニナ、カキ、ハマグリなどの貝類をはじめとして、シカの骨（角、下顎骨、肩甲骨など）イノシシの骨などの小動物や魚類の遺骸、骨角器が出土しています。



木製品集積地部分の検出状況